

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年8月14日

【四半期会計期間】 第37期第1四半期(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時 機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安 部 一 夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安 部 一 夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第36期 第1四半期 連結累計期間	第37期 第1四半期 連結累計期間	第36期
	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	4,270,992	4,274,727	17,481,099
経常利益 (千円)	139,623	168,165	634,302
四半期(当期)純利益 (千円)	108,958	305,662	342,373
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	100,139	307,320	344,727
純資産額 (千円)	5,149,959	5,698,378	5,393,448
総資産額 (千円)	13,725,878	13,885,754	15,262,233
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	5.09	14.29	16.00
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	5.00		15.74
自己資本比率 (%)	37.5	41.0	35.3

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第37期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府経済政策や日銀の金融政策により、企業収益や雇用環境の改善傾向が続き、緩やかな景気回復基調が続いているものの、消費税増税の影響、海外景気下振れや地政学的リスクに対する懸念等もあり、不透明な状況で推移いたしました。

外食産業におきましては、消費税増税による消費減退の影響は限定的なものに止まっております。しかしながら、原材料価格や電気料金の上昇、人材の確保、業態を超えた競争等、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、当社グループは経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様のご要望に合う魅力あふれる「安全・安心」に配慮した商品の提供に加え、おもてなしの心を込めたサービスの充実に努めました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高42億74百万円（対前年同期比0.1%増）、営業利益1億84百万円（対前年同期比20.2%増）、経常利益1億68百万円（対前年同期比20.4%増）、四半期純利益3億5百万円（対前年同期比180.5%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

安楽亭業態

安楽亭業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は198店舗であります。内訳は直営158店舗、暖簾6店舗、FC34店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「カルビまんぷく祭」、「GWハッピー大皿セットフェア」、「ヘルシー！オージービーフェア」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアや「極上のこだわり素材のおいしさ！和風デザート」等のメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は36億46百万円（対前年同期比0.3%増）となり、セグメント利益（営業利益）は2億72百万円（対前年同期比11.0%増）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は23店舗であります。内訳は直営21店舗、FC2店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「春の味比べ！ご当地和牛フェア」、「牛・羊・豚・鶏を賑やかに食す！牧場焼肉フェア」、「ご好評にお応えして堂々復活！牛一頭食べつくし祭」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアや和風スイーツ等のメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は5億20百万円（対前年同期比6.5%増）となり、セグメント利益（営業利益）は61百万円（対前年同期比43.0%増）となりました。

その他業態

その他業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は12店舗であります。内訳は直営5店舗、暖簾1店舗、F C 6店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋(焼肉)」、「楽コンセプト(焼肉)」、「国産牛カルビ本舗安楽亭(焼肉)」、「和牛カルビ屋(焼肉)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「龍饗(中華)」、「カフェビーンズ(喫茶)」、「AGRICCO(イタリアンカフェ)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は1億6百万円(対前年同期比27.5%減)となり、セグメント損失(営業損失)は0.9百万円(前年同期はセグメント損失2百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ13億76百万円減少し、138億85百万円となりました。借入金の返済等により現金及び預金が13億31百万円減少したこと等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ16億81百万円減少し、81億87百万円となりました。これは主に、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ3億4百万円増加し、56億98百万円となりました。これは主に、四半期純利益の計上によるものです。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,504,347	21,504,347	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株 であります。
計	21,504,347	21,504,347		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日		21,504,347		3,182,385		147,735

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 112,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,219,000	21,219	
単元未満株式	普通株式 173,347		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	21,504,347		
総株主の議決権		21,219	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式937株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2-3-5	112,000		112,000	0.53
計		112,000		112,000	0.53

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,939,608	1,608,358
受取手形及び売掛金	338,957	271,279
商品及び製品	125,746	132,558
仕掛品	636	1,052
原材料及び貯蔵品	333,450	379,868
前払費用	211,335	205,643
繰延税金資産	75,643	52,311
その他	110,183	77,006
流動資産合計	4,135,563	2,728,079
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,234,469	2,203,333
機械装置及び運搬具（純額）	43,314	39,186
工具、器具及び備品（純額）	172,699	168,041
土地	5,627,685	5,617,412
リース資産（純額）	21,310	124,483
有形固定資産合計	8,099,479	8,152,457
無形固定資産	105,238	106,318
投資その他の資産		
投資有価証券	72,438	84,955
長期貸付金	855,012	847,901
長期前払費用	28,259	26,900
繰延税金資産	79,492	75,854
敷金及び保証金	2,569,302	2,552,742
その他	53,420	46,357
貸倒引当金	735,974	735,812
投資その他の資産合計	2,921,951	2,898,899
固定資産合計	11,126,670	11,157,674
資産合計	15,262,233	13,885,754

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	549,524	455,721
短期借入金	6,801,644	5,103,726
リース債務	11,553	34,512
割賦未払金	23,318	34,300
未払金	257,625	271,067
設備関係未払金	80,595	39,174
未払費用	509,233	546,237
未払法人税等	187,167	193,758
未払消費税等	84,408	123,839
賞与引当金	83,440	51,550
転貸損失引当金	3,217	3,217
その他	545,794	456,838
流動負債合計	9,137,522	7,313,945
固定負債		
長期借入金	7,172	38,096
リース債務	19,721	107,648
長期割賦未払金	63,852	89,426
繰延税金負債	118,197	118,329
役員退職慰労引当金	284,093	288,467
転貸損失引当金	24,932	24,128
退職給付に係る負債	138,758	132,799
その他	74,534	74,534
固定負債合計	731,261	873,430
負債合計	9,868,784	8,187,376
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	260,603	48,707
自己株式	67,871	67,871
株主資本合計	5,391,171	5,700,482
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,762	2,104
その他の包括利益累計額合計	3,762	2,104
新株予約権	6,040	
純資産合計	5,393,448	5,698,378
負債純資産合計	15,262,233	13,885,754

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	4,270,992	4,274,727
売上原価	1,558,141	1,499,903
売上総利益	2,712,851	2,774,823
販売費及び一般管理費	2,559,701	2,590,710
営業利益	153,149	184,112
営業外収益		
受取利息	8,129	7,798
受取配当金	990	1,013
受取地代家賃	2,764	2,664
貸倒引当金戻入額	179	162
その他	13,865	12,045
営業外収益合計	25,929	23,684
営業外費用		
支払利息	36,487	34,708
その他	2,967	4,923
営業外費用合計	39,455	39,632
経常利益	139,623	168,165
特別利益		
受取保険金		3,924
債務免除益		361,663
特別利益合計		365,587
特別損失		
固定資産除却損	1,671	144
減損損失		21,858
賃貸借契約解約損	174	1,540
特別損失合計	1,846	23,543
税金等調整前四半期純利益	137,777	510,209
法人税、住民税及び事業税	22,781	180,301
法人税等調整額	6,037	24,245
法人税等合計	28,818	204,546
少数株主損益調整前四半期純利益	108,958	305,662
四半期純利益	108,958	305,662

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	108,958	305,662
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,819	1,657
その他の包括利益合計	8,819	1,657
四半期包括利益	100,139	307,320
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	100,139	307,320

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間
(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が5,613千円減少し、利益剰余金が3,648千円増加しております。なお、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
(株)書楽	178,487千円	(株)書楽	172,081千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
減価償却費	87,301千円	89,815千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	3,634,680	488,787	147,525	4,270,992	4,270,992		4,270,992
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	3,634,680	488,787	147,525	4,270,992	4,270,992		4,270,992
セグメント利益又は 損失()	245,673	42,887	2,933	285,627	285,627	132,478	153,149

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	3,646,967	520,777	106,982	4,274,727	4,274,727		4,274,727
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	3,646,967	520,777	106,982	4,274,727	4,274,727		4,274,727
セグメント利益又は 損失()	272,731	61,321	974	333,079	333,079	148,966	184,112

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、事業セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に変更しております。

なお、当該変更が当第1四半期連結累計期間のセグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

報告セグメントに帰属しない全社資産について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては21,858千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	5円09銭	14円29銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	108,958	305,662
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	108,958	305,662
普通株式の期中平均株式数(株)	21,392,910	21,391,410
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	5円00銭	
(算定上の基礎)		
普通株式増加数(株)	377,064	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8月13日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代表社員 業務執行社員	公認会計士	小 笠 原 直	印
代表社員 業務執行社員	公認会計士	木 村 直 人	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。